

兵庫県大会最優秀賞

(中央大会奨励賞)

個性あふれる社会に

神戸市立王塚台中学校2年 若狭 璃子

骨形成不全症という病気を持って、私は生まれました。骨が大変弱く、こけたりぶつかったりただけで簡単に骨が折れてしまいます。私も小学校入学前までは骨折を繰り返して、常に足にギブスを巻いている状態でした。症状が重い方は骨が変形してしまうこともあります。そして、成長ホルモンが人より少ないため、身長もあまり伸びません。私の身長も百二十二センチという中学生とは思えない身長です。

また、私は家の中や学校の中などの短距離なら歩けますが、長い距離を歩くことはできません。だから、車いすを使用しています。学校では、私の身を危険から守ってくれる先生が常にそばに付き添ってくれています。そのおかげで、私は安全に学校生活を送ってこれました。しかし、それを辛く感じることもありました。

授業時間はもちろん、給食時間も休み時間も特別教室への移動も常に先生がそばにいました。そのため、友達たちは遠慮して私に近づいてきませんでした。みんなと一緒に活動できないことも多く、そんな時は先生と二人で過ごすことになります。みんなと私の間には目に見えない壁があるように感じていました。友達同士のたわいもない話、ちょっとした冗談で笑い合う、宿泊行事で先生に隠れて、夜遅くまでひそひそ話をする。そんなささやかな学校生活の楽しみが私も欲しいと強く思いました。

仲の良い友達に、私だけ遊びに誘われないということもありました。しかし、私と一緒にスロープやエレベーターを探して遠回りするなどの迷惑をどうしてもかけてしまうことを考えるとそれも仕方がないことだと思い自分から積極的に誘いかけることはできませんでした。

みんなが当たり前にしていることが、私にはできない。みんなの普通が私には普通ではない。私だけ、なぜ、こんな辛い思いをしなければならないのか。そんな悪い考えばかりに捕われていました。

しかし、私は考え方を変えました。どうしようもないことをいつまでもグズグズ思い続けていても仕方がない。この障がい、私の個性なんだ。どの人もその人なりの個性を持って生まれてくる。みんなにできて私にできないことは山ほどあるけれど、みんなにはできなくて私にしかできないこともきつとある。そう考えれば前よりも気が楽になりました。

こんな風に考えられるようになったのは、今の中学校の友達のおかげです。中学校入学直前に骨折し、みんなより二ヵ月遅れて入学することになりました。初めて会う友達。そして、もうすでにクラスの中でグループができているのでは…。教室の中でひとりぼっちになるかもしれないと不安がいっぱいでした。しかし、登校初日から同じ小学校からの人

も別の小学校からの人も積極的に話しかけてくれ、たくさんの方ができました。また、先生方も小学校の時よりは少し離れて見守ってくださるようになり、友達との距離がぐっと近くなりました。

そして、電動車いすの使用。友達と一緒に登下校したり、買い物に行ったりできるようになり、私の世界は大きく広がりました。みんなに迷惑をかけることになるなら行かない方がましだと、あきらめていた宿泊行事も今度は、絶対にみんなと参加したいと思えるようになりました。来年の修学旅行をとっても楽しみにしています。

友達の一人として当たり前前に接してくれる仲間の存在が私を変えてくれたのだと思います。

しかし、車いすで外の世界に出ると今だにじろじろ見たり、振り返って見たりしてくる人がいます。わざわざ物陰に隠れてまで見てくるひどい人もいました。車いすが珍しいのでしょうか。確かに私自身も珍しい物を見つければ、振り返って見てしまうかもしれません。私は、車いすでどんどん外へ出て行きたいです。もっともどこまでも。そして、そんな人が増えれば、車いすも障がいを持つ人も決して珍しい存在ではなくなるはずです。そうなれば、障がいでも辛い思いをしてる人や自分のコンプレックスで悩んでいる人もその障がいやコンプレックスを「私の個性」と考えられるようにきつとなると思います。そして、素敵な個性があふれる社会になることを願います。